

# 平成28年度 第3回 彦根市子ども・若者会議

平成28年(2016年)12月1日 午前10:00~11:45  
彦根市福祉センター 別館2階 集団健診室

## 1 福祉保健部長あいさつ

## 2 議事

### 彦根市子どもの貧困対策計画

- (1) アンケート調査の結果について
- (2) ニーズの整理、計画策定の視点について

- 資料
- 1 調査結果報告書(速報版)
  - 2 ニーズ・視点の整理
  - 2-1 ニーズ・視点の整理(補足版)
  - 3 児童扶養手当受給資格者へのアンケート結果について

追加資料 子どもの生活に関するアンケート調査結果のまとめ(速報版)

### 【開会のあいさつ】

おはようございます。本日は皆様大変お忙しい中ご出席頂きましてありがとうございます。  
只今より平成28年度第3回彦根市子ども・若者会議を開催させていただきます。  
開催にあたりまして福祉保健部長からご挨拶申し上げます。

### 【福祉保健部長】

みなさんおはようございます。大変お忙しい中、第3回彦根市子ども・若者会議にご出席頂きまして、誠にありがとうございます。開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。平素は本市の行政、とりわけ子ども子育て、若者支援、教育施策の推進につきまして格別のご理解とご協力を賜っております事に改めて御礼を申し上げます。またみなさま方におかれましては、それぞれの立場で日々のご活動にご尽力を頂いている事に関しましても敬意を表し感謝を申し上げます。

さて、これまで2回子ども・若者会議を開催させて頂きました。皆様からご意見を頂戴し特に前回のアンケート調査につきましては多くのご意見を頂き熱心にご議論を頂きました。

今回はそのご意見を踏まえ内容を検討した上で実施した、アンケート調査の結果につきまして事務局からご報告させていただきます。またアンケート結果を受けまして市民のニーズの整理、それから計画策定へ向けての視点についてご説明をさせていただきます。合わせまして一人親家庭を対象としまして「児童扶養手当の現況届け」の際に実施しましたアンケート結果についてもご報告させていただきます。結果についてはそれぞれ特徴的な部分も出ていると思いますので、これに対して皆様のご意見を伺いたいと考えています。本日も忌憚の無いご意見を頂戴したいと考えております。簡単ではありますが冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 【事務局（子ども・若者課長）】

本日は全委員19名中12名のご出席を頂いております。彦根市子ども・若者会議条例第6条第2項に基づき過半数の出席となりますので、本日定数を満たしている事をご報告させていただきます。

また本日もアドバイザーとして幸重先生にお越し頂いております。よろしくお願い申し上げます。事務局側は先程ご挨拶しました福祉保健部長、次長、社会福祉課、子育て支援課、幼児課、障害福祉課、健康推進課、保健年金課、学校教育課、生涯学習課、子ども・若者課から出席しています。

よろしくお願い申し上げます。

続きまして資料の確認をお願いします。事前に次第、調査結果報告書(速報版)、ニーズ視点の整理、児童扶養手当受給資格者へのアンケート調査結果を送付させて頂いております。ここに追加資料としまして、資料2補足版、追加資料：彦根市子どもの生活に関するアンケート調査結果のまとめ(速報値)を本日机上に置かせて頂いております。

それでは条例第6条第1項の規定によりまして会長が議長になって頂き議事の進行をよろしくお願い申し上げます。

### 【会長】

みなさんおはようございます。第3回彦根市子ども若者会議です。ご挨拶にもありましたが、第2回までは子どもの貧困に関する実態がどうであるかのアンケートの実施、その結果を施策に生かしていこうという流れです。アンケートの内容を十分審議し実施をされたという事で、今日はその速報値ではありますが結果が出たという事で、今日の会議の主な狙いはその結果からこういう施策は大事だという所までがある程度明確になればいいと思っております。ただ時間が大変短いのでまずはこの結果をみなさんと共有し熟知していくということが大事だと思います。1時間半を予定しています。説明も長くかかりますが、みなさんの忌憚の無いご意見をよろしくお願い致します。それでは議題に入りたいと思います。議事内容は2つありますが、まずはアンケートの結果について、それから結果を受けてのニーズの整理計画策定の視点について、これは関連した内容になりますので一括して事務局より説明をお願いします。

### 【事務局】

資料1 彦根市子どもの貧困対策計画策定にかかる調査結果報告書(速報版)

追加資料 彦根市子どもの生活に関するアンケート調査結果のまとめ速報値  
資料2 彦根市子どもの貧困対策計画 ニーズ視点の整理 (及び資料2 補足版)  
について説明

【会長】

膨大な内容です。アンケート調査と資源量調査結果のご説明、そこから出てくるニーズ視点を整理して頂きました。この辺りをより「ここは重要じゃないか」これは「もっと無いけれど、この視点があればいいのではないか」等のご意見を頂きたいです。今日はアドバイザーもおられます。造詣深いお立場からこのアンケート結果傾向が全国的にどうであるか、あるいは彦根市としての特徴があればご意見を頂けますでしょうか。

【アドバイザー】

説明を聞かせて頂いて、回答率は高いいい結果だと思います。全国各地でも行っておりますが、その中で企画についてコメントをさせて頂くと、データの方で子どもの生活に関するアンケート調査に関してですが、今回のアンケートではほとんど母親が答えています。京都でも同じように中学生向けにアンケートを行い、夏休みに若者センターに集っている若者に直接食事だけに限定したアンケートを行いました。今回の調査結果をベースに考えてもらえたらいいですが、保護者視点で書いていますので、議論の中で子どもたちの置かれている状況の視点でアンケート結果を見るのが大事だと思います。子どもの視点で計画策定していくことが大事だと思います。

もう一点、資源量調査が面白く、P72で子どもの貧困が見えないことを表すことで、ズレを見受けられることができ、今後これから議論していくきっかけになると考えます。

【会長】

これから考えていくにあたってご試算頂いた様に、子どもの視点で考えていこう、それから「見えない」事、今「見える化」という表現が流行っていますが、どのように「見える」ようにしていくか、みなさんの課題としていくかです。そのあたりが視点の整理にも活かされると思います。彦根市ではどうしていくかと言うと難しいですが、この子ども・若者会議にはそれぞれの立場の方が参加して頂いていますので、それぞれの立場で気になる点などをご意見頂ければと思います。

私からは、やはり「見えていく」ことが大事で、子どもの貧困、例えばニュース等で聞く事はありますが、どこかで私とは無関係という所があります。そのあたりの視点で市民の啓発という意見が出ていますが、何か具体的にお考えの意見はありますでしょうか。子どもの貧困啓発というのは難しいと思います。

【事務局】

一般的ですが、今までしていなかったフォーラムやシンポジウムをしていく必要があると思います。各地域に根ざした形でどのように啓発していくかは、これからの検討になります。

また、子どもの人権という視点から考えた場合でも、色々な手段を使って啓発できると思います。まずはフォーラムやシンポジウムを開きたいと思っています。

【会長】

続いて資源量調査でのアンケートにも出てきていますが、どこまでやったらいいのか率直な意見だと思います。しかしかわいそうだから、例えばお風呂に入れないで来た子などは、夏は大変で、冬は余計に大変だと思います。夏はプールや水遊びがあるが、冬はそういう特別な行事が無いので、どこまでやったらいいのか常に葛藤を持っておられます。このあたりすごく大事なことじゃないかと思います。これは事務局に伺うより現場の方がおられますので、保育園等の先生方このあたりいかがでしょうか。

【委員】

会長がおっしゃったように、保育園はその子がかわいそう気の毒という以前に、集団の中に入れられない状態でものすごい異臭を放っています。もちろんその子もかわいそうですが、お部屋に入れるため

にはシャンプーしてお風呂に入れないといけません。担任は昨日もお風呂に入れたのに今日も臭うと言います。おそらく家の中が汚くて異臭を放っているから保育園でお風呂に入ってシャンプーをしても、家に帰ったら臭いがしみつくのではないかと思います。市の方に来て頂いてお話もさせてもらい、保育園ではなんとか頑張って支援できます。しかしその子の将来を思うと色々な制約はありますが、小さい時から生きていく力をつける為に施設にしばらく入れて生活のリズムをつけ綺麗なほうが、気持ちがいいという感覚を覚えさせ、そうすると自分で出来る力も出てくるんじゃないかと思います。一生懸命出来る所まではさせてもらいますが、ある程度の年齢になればしてあげたくてもその子が拒否したり、あの子が来たらどうしてシャワールーム行くの？という目があったらそれも出来なくなります。もちろん学校に行きいつまでも支援してもらえぬ訳ではないから、難しいですがまずは生活力やリズムをつけて必要な子は小さい時にそういう施設でしっかりと育ててあげないと今一生懸命頑張っても卒園して小学校に上がったら終わりになると思います。上っ面だけでなく根本をどうにかしないと、毎日矛盾を感じながらお世話させてもらっている所です。

もうひとつ、保育園に諸費が入ってきません。でも子どもが着ている服はブランドです。乗っている車は良い車です。そういう家庭を貧困というのかという矛盾があります。このブランド高いのと違うと聞くと、高いけど古着で高く買ってもらえると言われます。本当に貧困から救っていかないといけません。子は勿論いますが、そういう人ばかりではありません。私達も一生懸命働いていますが、子どもにブランド服はとても買えないと言っています。そういう実態があるという事も知って頂きたいです。水を差すような事ですが、そういう実態を現場で見えています。

#### 【会長】

一点目は生きていく力をつけていく、二点目は子どもの貧困だが実は親に生活力がない事が子どもに悪循環が起きているという事です。最初に申し上げた「どこまですればいいのか」例えば保育所などの乳幼児期は生きる力をつけられないといけません。小学校以降になってくると本当にどこまでやってあげたらいいのか、「対処療法的」でこの子自身の根本的な生きる力に繋がらないという葛藤があると思います。だから小さい頃から生きる力をつける、親の生活力をしっかりとつけていく支援が大事な視点になってくると思います。決して水を差すような意見では無いと思います。

#### 【委員】

児童相談所ですが、施設という話が良く出てきますが、みなさん実態を本当に知っておられるのかなと思います。0歳から18歳までの子どもたちで、今滋賀県内で親元を離れて暮らせる人数は300人足らずです。尚且つ里親の所で暮らしている子は40%位です。もちろん里親は足りないです。預けられる子どもは、親族にも預けられないし新しい施設を作る事も難しいです。里親をいくら啓発しても里親に子どもを預ける親の抵抗もあります。実質問題、理想的にはどこかで誰かが集中的に教育をすればいいが、現実的にはマイナスを沢山かかえながら生活の中で支援をしていると思います。それからニーズ調査などから問題点は出てきていますが、この家族の強みはどこでしょうか。結局支援というのは問題を解消することよりも、その家族の持っている強みをどれだけ増やすかです。こういう視点で支援を考えていくべきです。無くす支援は非常に難しく、増やす支援は沢山あり、リスクは抱えているが、死なずに生きていけるのはなぜか、その家族の持っている強みをより強化してあげる為には何をすればいいか、という視点で仕事をしていこうと言っています。ですからフォーラムやシンポジウムをするときに問題点に対してどう対処するかよりも、たくましく生きようとしている人たちを含め、どのような応援が必要なのかという視点で取り組んでももらいたいと思います。こういう調査ではなかなか強みを探するのは難しいです。例えばおもしろいと思ったのは、学習支援をどのように進められてそこへ子どもが行くようになったか、要するに効果のある支援をどこでその子が知って、しかも最初は嫌だったけど行きだして良くなった、そういった所がわかると具体的な支援のヒントになるのではないかと思います。理想は色々ありますが、現実には中々難しいという所です。

#### 【会長】

児相の立場からかなり現実的なお話をいただきました。また、問題を解決する方法ではなく、良いところを親の生きる力に増大させる方法、そこを強みに変えていく支援が必要ではないかというご意見で

す。

#### 【委員】

保護司をしています。今日のお話を聞かせて頂いて、何をどう進めて行ったらいいのか、また市はどうすべきなのか、私達の立場でどうすべきなのかを考えていますが中々難しいです。つまり親が働いたお金で、子どもを育てていくという事を根本的にしていけないといけないと思います。例えばうちの家内は民生委員をしています。私の地域でも朝食を食べて行けない小学生がいます。学校へ遅れて行きます。途中で営業所があり、そこへ行くとき営業所の所長さんが「今日ご飯を食べてきたか」と聞いて下さいます。そこで食べさせてもらい、暑い時にはそこでジュースや水をもらいガブガブ飲みます。「学校行くか」と聞くと「これから行く」と言って学校へ行きます。しかしそのご家庭は、お母さんが一人で小さい子を育てておられます。朝も昼も夜も食べていないと思います。食べられるのは給食だけです。そういう子どもたちを市として何とかしなさい、児相として何とかして欲しい、学校でなんとかしなさいではなしに、私の前任でこの会議の委員をしておられた方が「子ども食堂」を開設されています。民間のそういう力もその方だけではなく、地域の方が協力しあって子どもたちをみんなで守っていこうという風な形ですのも一つだと思います。もうひとつ貧困の中で非行、そして学校で暴れる問題や事件を起こします。少年院または少年刑務所、少年鑑別所に入ります。そして出所しましてもその子は絶対良くなりません。なぜかというとなんか帰ってきても住む家がありません。親が「お前みたいなのは子どもやない」と家に入れません。食べるものもありません。そうしたら次に何をするかというと、また悪い事をして再犯をします。それを食い止める為に私達保護司や寺の者ができる事は、京都に白光荘という女子の更生施設があります。女子が三ヶ月から半年くらいそこで生活しながら自立できるようにお金を貯めてやっておられます。

今、私達が中心となって男子、子どもたちのそういう施設を作りたいと、強烈に西本願寺に要請しています。一度に施設を作る事が出来なくても、仕事と住む場所食べるものがあれば、再犯を防ぎ子どもたちが立派に生きていけるような、そういう方法が見出せるのではないのでしょうか。

市にお願いしたい事はこれだけのアンケートを取られましたので、出来る所からお金が出せる所はお金を出して、人がいれば解決できる問題もあります。学校支援する事も地域を支援する事も市の熱意もあると思います。学校がどこまでしたらいいのですかという事をいわれるが、私はとことんやっただけだと思います。学校の授業をやめてでもその子の家に行って、何とか親を説得し子どもと一緒に生活して行く方法やそういう力をつけていくのが教師だと思っています。

できない事もあるのはよく分かりますが、何とかしようというそれぞれの方の思いが大事ではないかと思っています。

#### 【会長】

子ども達の為にとという事ですが、二点お話がありまして、一点目は子ども達を育てるのは地域という事、色々な施策があったとしても他人事ではなくその地域がいかに集まっているかという「地域力」全く違う視点ですが、例えば放課後児童クラブは待機児童が増えてきています。とにかく受け入れる為にキャパを作るがぜんぜん違う地域に作っている。本末転倒でこの子の居場所はやはり自分の地域です。地域という視点はすごく大事だなと思います。二点目は自立するための施設、今国家の働きかけとおっしゃいましたが、色々な団体等の力を借りて、生きる力を育てていくような施設がやはり必要ではないかというご意見でした。

#### 【委員】

私も今言われました、見える地域の子どもは地域で育てるという心情で、放課後児童クラブを企画運営しています。NPO という形上、支援する部隊もあるので、地域からダイレクトに入ってくる事もあります。放課後児童クラブの取り組みは小学生を相手にしていますので、出来る事は自分で出来る様になって生活力を身につける、そういう意味で出来る事は支援するという事と、後は、放課後児童クラブの役割をはっきりさせていこうと思っています。小学校とか地域とか学校を超えずに、ここで何が出来るのかを考えています。まずは楽しい事を経験してもらおう中で、支えとなり寄り添う気持ちを子ども達と共感していきたいと思っています。縦と横と言いますと分かりにくいと思いますが、保育園から小学校、中

学校へ流れるように繋げて頂きたい、今は小学校から放課後児童クラブ、地域へ帰ってきます。そちらも流れるようにうまく繋いでいけたらと思います。例えばと金城学区の小学校は私どもの放課後児童クラブに来ています。ホームスタートといって乳幼児の子ども家庭支援されている所があり、そこから小学生になれば児童クラブに来て頂いて、中学生になれば、別のNPOですが学習支援をして頂いています。そこと一度話し合いをして、何か地域で連携が取れないかなと考えています。放課後児童クラブに民生委員さんや家庭的に大変な子を支援されている方をお迎えに来て頂いて、そことの連携を取る。そういう形で枠は難しいですが、子どもたちがその家庭で生活して行って、私達がかわいそうと思って色々する事がその子にとって良い事なのか悪い事なのか含めて考えながら、その家庭で生きていける方法を支援していく事が私達の役目ではないかと思っています。

#### 【会長】

やはり地域で育ていき、そこで生活力つまり自分で生きていく力を育てていく施策でなければならないという共通した意見です。それと色々なところと連携していく大切さ、というご意見でした。

#### 【委員】

民生委員をしています、自分の地域で、孤立した子ども達があります。私達も幼稚園から相談を受けていますが、親に会えない、会ってくれません。おじいさんと一緒にいますので、おじいさんが一緒の時は出てきますが子どもの話は一切しません。そういう家庭の子どもは学校も行っていません。幼稚園のときから殆ど行っていません。小学校へ行き出したので良かったと思っていたら、お姉ちゃんが行かなくなり弟も行かなくなりました。困ったなと思って行くと、子どもも私の顔を見ると引っ込んで隠れます。でもこの人が民生委員さんだと知っているのだから「じーっ」と見えています。親が貧困で、ものすごい借金をしていますが払えません。払うために親戚中から借りています。親戚中から借りたお金を返すために、家にお金を入れません。そうなるとうちで喧嘩がおきます。おじいちゃんと喧嘩、夫婦喧嘩そういう状態がずっと続いています。もう地獄です。

そうなってくると、どこまで地域で見守っていくか、私たちは見守るしかありません。近所で「こども食堂」をやったので助かります。貧困な子には太っている子が多いです。なぜかなと思いますが、殆ど昼間は食事をとっていません。子ども達は夜中に遊んでいます。ゲームをしてお腹が空いたらコンビニで買って食べます。そういうことはできる、そういう楽しみがあるのかなと思います。

一時期アニメを学校で見せたら学校に行くんじゃないかと言った事がありますが、そんな事できませんと言われてそのままになっています。バイクで走り回ったり、家に引きこもったまま出てきません。ある引きこもった子はもう45歳を超えています。もう家の中がゴミだらけ、そういう中で寝ています。親は怖いので関われない。そういう状態の所もあります。小さい時にどこかで何かきっかけがあれば立ち直ったのではないかと思います。16歳の時から45歳過ぎまで引きこもっています。その時に何があったのかわかりませんが、やはりその子が活動するのは夜しかありません。見守る事しかできないのが民生委員の立場ですが、地域でケアしたくても相手は逆に隠しています。啓発している事がどこまで話しているのかわからないので、非常に困ります。昔からの人や自治会は知っています。おとなしいから別に何も言わなくていいだろうと、実際は相当困っています。もし地域で支援を必要とするならばもう少し別の方法の支援が必要だと思います。民生委員が行っても結局家族の問題で家族対応にして下さいとなります。市へつなげはしますが、その後は市が家族へ対応します。ですが結局前に進んでいきません。寂しさを感じます。

#### 【会長】

子どもの貧困を表面的に啓発するのではなく、そういう親の支援実態を含めて理解して頂きたいという意見です。それから言葉はきれいですが「地域、地域・・・」具体的に地域が出来る事は難しいです。子ども食堂であるとか、何が出来るかという事がある程度明らかにしておくことが重要だと思います。地域の力を活用してという言い方で終わらないことが大事だという、すごくいいご意見だと思います。

#### 【委員】

幼稚園でお子さんをお預かりしているものとして、親の心の貧しさが目に見えてあるように思います。

まず私達が出来る事は、親の悩みを聞いてあげるのの一つではないかと思っています。日々出来るだけ保護者の方にふれ、お話するという事を、先生方にもお願いしています。本当に地味な仕事ではありませんが、まずはお母さん方の支えになればという気持ちで日々過ごしていますが、十分な事は出来ていないと思っています。ただ年々ご家庭が複雑になって、30年以上させて頂いているが最近のご家庭の複雑さが一件一件違うと感じます。個々のお母さんには合っている言葉でも、こちらのお母さんには合わない事もありその対応も中々難しいと思っています。まずは何が正しいというよりも、少しでもお母さん方の不安を無くせるようにしたいと思います。特に何かを言ってこられるお母さん方は、園に対する要望ももちろんですが、それ以上に誰かに話したり頼りたいという気持ちが多いのではないかと思います。ご要望のあるお母さん方にはできるだけ「今日はこんなでしたよ」「お母さんこの頃どうですか」と、そういうさじ加減ができたと思います。今は地味な活動ではありますがさせて頂いています。一点お尋ねですが、家族が持っている強みというお話がどこかで出たと思いますが、強みというのはどんな所か、またこれからの参考にしたいと思うので具体的に教えて頂けますでしょうか。

#### 【会長】

悩みを聞いてあげるという事を続けてきたという事と、これからの課題にしていかなければならない。悩みを言ってくれる人はいいが言わずに帰る人もいます。そのあたりは現場として大変だと思います。一点質問がありましたが、強みをしっかりと育ててあげるというのは家庭によって違うと思いますが、例えばどのような事がありますか。

#### 【委員】

基本的には家族に聞いてみます。何かいつもと違った事があったり、いつもだったら怒鳴り散らしているのにその時は普通に話せていた時に「できる力がある」「なんでできたのかな」という事を聞いていく事です。そうすることで家族から家族なりの工夫とか、試し、色々なものが引っ張り出せます。とにかく何かいつもと違う事とか、出来ないと思っていた事が出来ていたり、そういう所を見つけた時にその事について声を掛けて、「それってあなたの家族の力かもしれないし あなたの力かもしれないね、そういうのを一杯増やしていったらいいよ」という風な形で関わっていく事で、家族なりの強みを見つけられると思います。個別が大事ではなく、「普通は…」という切り口でいくと強みは見つかりません。そのご家庭オリジナルで、お風呂に入れなかった子がお風呂に入れた。家族で海水浴に行ったなんて話しもあるかもしれません。服装にしても式典の時など少しましな服を着て、いつもと違う所を見つけた時に聞いていく事で強みを引っ張りだせると思います。

#### 【会長】

悩みを聞いてあげる活動を通して「ここをこうしなさい」ではなく「あなたってすごいじゃない」という取り組みのご説明だと思います。こういう視点で見ると、保護者への学校職員の対応、力量の向上も必要になってくると思います。

#### 【委員】

彦根市PTA連絡協議会のです。ニーズの視点で「地域から独立しない仕組み」は昔ながらの日本という形で一番大事だと思います。ただこれは短期では出来ません、絶対長期的に継続しないと出来ません。今、彦根市の小学校PTAの会長はシングルの方がなるケースがあります。最初の4月頃にはとにかく大変だから嫌の一言ですが、10月、11月頃になってきますと、地域の方々、学校の他の関係を目で見て感じて、はじめて自分の子は他の方々に育ててもらって大きくなっていくと理解して頂けます。一人でもこういう風に次に伝えていける方が増えていけばと思います。

このアンケートを取って、子どもたちの貧困よりも親の心の貧困のほうが一番大変ではないかと思えます。子どもたちよりも親をどう教えていくか、参加して頂くかという難しさがありますが、そこも踏まえて考えて頂きたいと思えます。

#### 【会長】

親支援という事で、委員がいまおっしゃった様に、以降力を注ぐ取り組みにもつながっていくと思

ます。次にまた事務局から説明があると思いますが、こういう風に計画を打っていきますというのが次回の審議になりますので、その事をご提示していただいた上で、またこの会議でご意見をより具体的に出して頂けるのではないかと思います。それでは本日の審議はこれで終わりますして事務局にお返しします。

**【事務局】**

時間が長くなり申し訳ございません。資料3の一人親アンケート調査、これは子ども・若者会議でお諮りしたものではありませんが、児童扶養手当の現況届の際実施した調査です。目を通しておいて頂けますでしょうか。ご意見があれば事務局までご連絡ください。

それでは今後は、本日頂きましたご意見等を踏まえまして計画策定に進めていきます。

次回は計画の骨子や施策案をある程度お示ししたいと思います。来年の1月中旬頃には開催予定です。

**【事務局（子ども・若者課長）】**

本日はみなさまから色々なご意見を頂きありがとうございました。地域でというご意見を頂けたのが大変心強いと思っています。そこへ次回はどういう風に引き出していくのかという所を考えながら施策体系を進めて行きたいと思っています。

本日はどうもありがとうございました。これで終わらせていただきます。